

くるみplus

地域コミュニティの基盤を生かした
多世代がつながる地域活性化事業

SEASON 2



テーマ：多世代が関われる仕組み & 場所づくり



◎子育て世代

- ・安心して繋がれる「地域の出会いの場」のニーズ
- ・子育てしながらも関われる場所

◎現役世代

- ・仕事以外にもリアルな人間関係が欲しい
- ・地域を知ることによって暮らしている街に誇りを持つ

◎高齢者世代

- ・スキルや能力を地域のために発揮できる完了
- ・家から出ることによって介護予防に繋げる



子育て世代・現役世代



地域

高齢者

1年目の実施内容



もちつき大会



おにぎり大作戦



イベント打ち合わせ



ハロウィン



多世代交流イベント



出張駄菓子屋さん

1年目の成果

	開催回数	来場者数	売り上げ	コメント
駄菓子屋さん	全48回 夏以降から 毎週水・金夕方	のべ客数 960人 スタッフ 18人	72,106円	こども店長が主体となり運営。お金のチェックや相談を地域の高齢者が世話人で担当
多世代交流イベント	4回開催	200人以上	124,542円	夏祭り、ハロウィーン、流しそうめん大会、もちつき大会など



早稲田大学LRC（地域課題解決を目的とした社会人学部）がくるみplusの地域コミュニティ活動を視察にこられました。（2023年11月）



美浜区地域活性化交流会を開催。活性化支援事業に採択された5団体や地域で活動をしている団体が繋がり、相互に連携できるような取り組みを実施。

課題

お祭りやイベントなど地域活動の現場で
多世代の交流が減った



解決イメージ

にぎわいづくりとしての季節ごとのイベント
開催を通して、地域を活性化する

気軽に立ち寄れる場所の必要性
その場所での人との交流



人が集まれる場所としてくるみplusを開放
交流できる環境面を整備

地域に暮らす人の「居場所」や「役割」に
出会う機会が少ない



地域の人が目が届く環境を作り、子どもも高
齢者も安全に、安心して暮らせる環境を作り、
地域住民が場所の運営を行なっていく

計画と体制について

	実施予定	具体的内容	ねらい	運営体制
駄菓子屋さん	週2回 年間通して開催	駄菓子販売 子どもも大人もそれぞれの目的で関われる場所を提供	駄菓子を通して、お店の運営を行う地域住民との交流が生まれる機会とする	地域の大人スタッフ数名と子ども店長が運営を担当
多世代交流イベント	季節ごとに 年4回の開催	夏祭り、ハロウィン、もちつき大会などを開催	高齢の方の知恵や経験を必要とする昔ながらの遊びやイベントを取り入れることで、遊びの中で多世代交流を促していく。	平均年齢30代のくるみplusの組合員をメインメンバーとし、近隣の町内会や学校とも協力したイベントにしている。

自立して、継続的な取り組みするために

1年目は、予定より6倍の売上が立ったが、その分仕入れなどの経費も多くなっている。継続的な活動にするために、地域の企業などを巻き込み、スポンサー費用や運営の補助を獲得する取り組みを進めて行く。

当会員スタッフの積極的な参加を促す

現在、イベント開催時においては5名の会員はほぼ100%の参加となっているが、平日開催の駄菓子カフェは、都合上半数程度の参加となっている。そのため、土日での開催を追加でおこない、また平日に運営できるメンバーを新たに募っていく。

地域全体で、よりたくさんの人に関わってもらおう取り組みにしてい

限られたエリアの人だけが対象者とならないよう、地域包括支援センターや美浜区担当かとも宣伝において協力し、幅広い地域住民が参加できる取り組みを行う。

自分たちならではの企画

継続的に関わり、通える場所とするため、運営スタッフやお客さんに対して、くるみ plusオリジナル電子カードを発行している。そこで、子どもたちにはお手伝いポイントなどを付与し、先進的な取り組みも積極的に取り入れている。

関連団体を巻き込んだ活動に

自治会メンバーや地域包括支援センター職員の方の参加も定常化してきており、また、先日開催された地域活性化交流会において、同じ支援事業に採択された団体同士で、集客や取り組みの連携を密に行なっている。